

科目名	文章と論理			ナンバリング	JPN151	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	久呉高之	担当教員	久呉高之				

授業の概要	学生諸君の書いた論述文を読むとき、いつも思うのは、論理的な関連が希薄であるため文章に説得力がない、ということである。日本語になっていない文章も多い。本講義は、文章相互の連関や論理的展開を中心として、言葉や記号の使い方、表記法も含め、論述文、とくに卒業論文などの「論文」を書くための諸要件の習得を目的とする。卒論制作に関する基本的な知識や注意事項についても解説する。						
到達目標	1. 枠組みとして頭になれば堅固な説得力のある論述が困難となるような論理の基本的パターンを把握・説明できる。 2. 公刊された書物におけるエッセイ風もしくは学術的な論述文の論理的な構造・展開を見定め、それについて説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	予備知識はあまり必要ないが、常日頃から言葉・文章に意識を向け、とくに言葉・文章相互の関係に注意を払う習慣を身に付けることが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
① 論述の眼目をなす論理のパターンについて説明できる。 ② 既存の論述文の論理的構造・展開について説明できる。 ③ 主部・述部関係が堅固で誤解の余地の無い文章を書くためのポイントを説明できる。 ④ 論文の書式や区切り記号の使い方、引用の仕方のポイントを説明できる。 ⑤ 学術的な論文における不適切な点を、諸原則にしたがって指摘できる。	① 論述の眼目をなす論理を実例に即して説明できる。 ② 既存の論述文の論理的構造・展開を実例に即して説明できる。 ③ 主部・述部関係が堅固で誤解の余地の無い文章を書くことができる。 ④ 出典の挙げ方や注の様式、漢字と仮名の使い分けなどの詳細について説明できる。 ⑤ 学術的な論文における不適切な点を、諸原則にしたがって是正できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		30%
宿題・授業外レポート	○						10%
授業態度・授業への参加			○	○		○	60%

課題、評価のフィードバック	1 配付プリントに記入された質問に対しては、次回の授業で回答し、解説を加える。 2 最終成績評価が50点台の場合には、希望者のみレポートを課す。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	論述とは何か	論述が成り立つための基本的な要件と、悪い論述文の5つのタイプについて解説する。	
	第2回	言葉の常識	常識に属する言葉だが、ふつう意味・用法を誤って覚えている言葉の正確な意味を解説する。	
	第3回	論述の眼目となる論理 1 基本的パターン	枠組みとして頭になれば堅固な論述が困難となるような論理の基本的パターンについて解説する。	
	第4回	論述の眼目となる論理 2 弁証法論理	枠組みとして頭になれば堅固な論述が困難となるような論理としての弁証法論理について解説する。	
	第5回	論文作成法	卒論などの学術論文を作成する手順、一つの論述における模範的な論理展開を大枠において解説する。	
	第6回	論理展開のタイプ	公刊された書物における学問的な論述文をもとに、論理的な構造・展開の一般的なタイプについて解説する。	
	第7回	論理展開の実例	公刊された書物における学問的な論述文について、その論理的な構造・展開について詳細に解説する。	
	第8回	明快かつ明解な文章 1	明快で明解な文章、とくに誤解の余地の無い文章を作るための諸要件について解説する。	
	第9回	明快かつ明解な文章 2	明快で明解な文章、とくに誤解の余地の無い文章を作るための諸要件について解説する。	
	第10回	日本語表記法 1	論文の書式や記号の使い方、漢字と仮名との使い分け、出典の挙げ方や注の様式などについて解説する。	
	第11回	日本語表記法 2	論文の書式や記号の使い方、漢字と仮名との使い分け、出典の挙げ方や注の様式などについて解説する。	
	第12回	漢字と語彙	同音異義語などの間違えやすい漢字と、論述に特有の必要もしくは便利な語彙について解説する。	
	第13回	推敲と校正 1	推敲の基本を悪文の典型的実例で修得し、校正の基本ルールにしたがってそれを訂正する。	
	第14回	推敲と校正 2	学生の卒業論文や、公刊された書物・雑誌の学術論文について、すでに学んだ諸原則にしたがい、不適切な点を訂正する。	
	第15回	推敲と校正 3	学生の卒業論文や、公刊された書物・雑誌の学術論文について、すでに学んだ諸原則にしたがい、不適切な点を訂正する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に、配付プリントを読み進め、聞き取ったことをプリントに書き込み、疑問点を質問して解消する作業を中心とする。		
授業外学習の指示		配付資料と参考書を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず参考書で確認するか教員に質問すること。余裕があれば、次回の講義に対応する参考書の該当箇所を読み、概要を理解しておく。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	毎回配付するプリントをテキストとする。
参考書	木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫(1994年)ISBN4480081216 780円
参考URLなど	なし
その他	なし